

新年おめでとう！ ことしもクロスロードから 始めよう！

発行元：108-8345 港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部 吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

ファシリテータの集いの詳細、まずは東京から

東京会場で発表して下さった板坂孝司さん(静岡県東部防災局)からの報告をご紹介します(写真は7ページに掲載)。

東京会場は慶応大学。昼頃から冷たい雨が降り始め、また、大阪会場より30分早いスタートということで多くの方が遅刻してくるのではないかと懸念の中、矢守先生、吉川先生をはじめ約20名のクロスロードフリークが集まりました。防災関係者に限らず、食品衛生関係の方も参加されており、クロスロードのもつ可能性の大きさを感じさせるものでした。

集いは、実践紹介、情報交換、新作の「要援護者編」の体験プレイ、懇親会という構成でした。チームクロスロードの本領発揮かタイムテーブルに囚われない進行で、ゆる

ゆると流れていく時間にまかせた、しかし、多くの意見が飛び交う濃密なイベントとなりました。私も静岡県での実践を報告させていただく一方で、多くの方の意見を聞くことができました。個々の実践についてもさまざまで、「ファシリテータの分だけクロスロードがある」という印象を受けました。何でもアリというクロスロードの柔軟なゲームシステムに改めて感動し、また、多くの方たちと交流することができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

幸い、その後静岡県内各地でもクロスロードが実践されるようになってきましたので、次の集いには大勢で参加したいと思います。

使い方のヒントが満載！！～東京会場に参加して～

いつも楽しく拝見している四コマ漫画。その作者、小溝智子さんのお話が聞けるとあって興味津々で参加しました。完成したクロスロードをどのように普及させるか――指導者の育成、販路確保の重要性に対する鋭い見通しと、ファシリテータ制度導入の経緯に感激しきり。「上司に物申すことがためられる内容でも(笑)、クロスロードというゲームの中でなら大丈夫」

「プレーヤ同士が仲良くなり、お互いの災害経験を知として共有できるすばらしいツール」といった発言に、小溝さんのクロスロードに対する並々ならぬ熱意を感じ、高知県で「県庁の星」と紹介されたことにも納得でした。ふり返りとして「YES」と「NO」のどちらを回答したかを参加者に聞き返す例や、クロスロードを行なう前に過去の事例を紹介して参加者に災害時の状況を具体的にイメージしてもらうような様々なノウハウ、また四コマ漫画作成の極意や、手提げ(兼防災ずきん)の作成秘話をさらりと紹介される小溝さんの言葉に、日頃から防災のことを考えているからこそ発言できる内容なのだ実感しました。

続いての発表は、静岡県の板坂孝司さ

ん。ファシリテータがパワーポイントで出題し、参加者全員が同じ問題に取り組む実践紹介が印象的でした。伝えたいテーマがはっきりしている場合に、「YES」と「NO」のそれぞれの理由を箇条書きにまとめた「クロスノート」を用いてジレンマを説明する手段は、大人数で開催する際に特に有効だと感じました。

静岡大学・小柳さんからクロスロード「静岡大学版」をご紹介いただいた後、要援護者編新作問題の体験セッションがありました。このセッションでは発表者からだけではなく、参加した方々それぞれの独自の使い方をたくさん拝見することができました。例えば、グループで討議した問題を順に並べ、その傍らに自らの回答と獲得した座布団を置くなど、ちょっとした工夫によってさらに充実度が増すことがわかりました。

クロスロードの可能性は無限である。今回の集いがあったことに感謝しつつ、このような場が継続的に設けられることを願って止みません。

(日本原子力文化振興財団 掛布智久さん)

目次

ファシリテータの集いの開催詳細	1
東京会場に参加して	1
大阪会場の報告	2-3
大阪会場に参加して	4
こんなところに心理学(9)	5
火事場で出る日常	5
小学生がクロスロード	6
進級者発表	7
資料共有システムのお知らせ	7
消防士は見た	7
新たなる挑戦	8

クロスロード次号のご案内



発行予定日：2. 28.
原稿続々、ことしは年度末前に発刊です。

責任編集

- ・ チームクロスロード
- ・ クロスロード・サポーター
- ・ SPECIAL THANKS:
高知県危機管理課
小溝智子(漫画企画)

クロスロード・サポーターの集い(大阪会場)に参加して

続いては、大阪会場の報告を発表者の高知県黒潮町の友永公生さん、参加者の四日市市人見実男さんにご報告いただきます。まずは友永さんの報告から。読むべし読むべし！

【必要は実践の母】

昨年5月、町の保健師からミニデイ（各地区で介護予防や孤立防止を目的に行っている高齢者向けデイサービス）で、防災学習をしてほしいとの連絡。聞けば、前年、高波で浸水しそうになった地域の民生委員の依頼で「台風シーズン前に防災学習をしてほしい」ということらしい。

日ごろ南海地震対策での学習会ばかりしているため、「風水害関係の学習会資料が無い！」ことに気づき、風水害のオリジナル問題を作り、まだ実践したことの無かったクロスロードをトライすることにしたのでした。

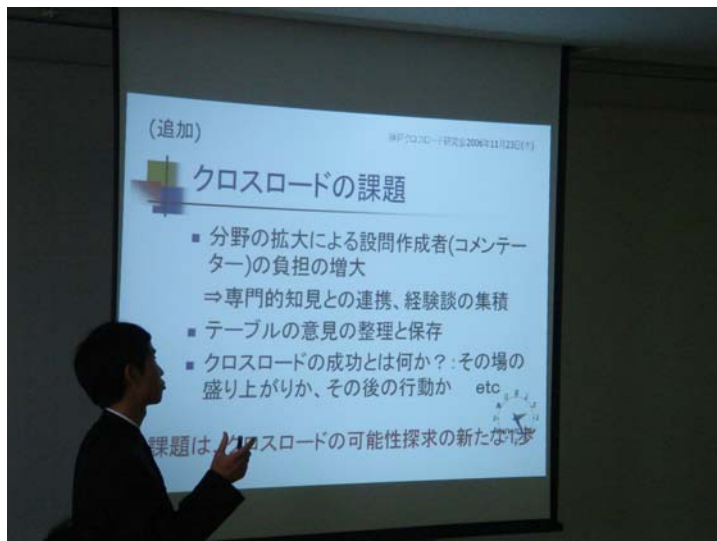


写真1 柿本さんの発表

そして、やはり「神戸市職員の経験を忘れないで」というメッセージに身の引き締まる思いでした。

次は呉市のとんがった消防職員林さん。女性消防職員の研修の場などで実践（クロスロード新聞第7号参照）している内容や、実際に使っているオリジナルカードを交えての報告。実際の火事場で起きた事例から生まれたオリジナル問題は、まさにクロスロード…引き込まれる内容でした。また、消防職員という立場でありながら保育園児と「ぼうさいダック」で防災学習をしている様子がとても印象的（というか、ギャップがセンセーショナル）でした。

日々厳しい現場で活動されているからこそ、逆に子どもたちに楽しく伝えることができるのだろうと勝手に推察していました。

三番手は高知市の今西さん。防災部署の前は長くケースワーカーをされていた方で、古巣の福祉部署の職員研修でDIGとクロスロードをドッキングさせて実践した内容を報告。（今西さんの詳細はクロスロード新聞第3号参照）

クロスロードを今後どのように生かしていくのかなどの課題があるとのことでしたが、大規模な職員研修に積極的かつ継続的に取り入れられていることに頭が下がります。

そして、私の報告。高知県が輸入し、市町村職員向けにファシリテーター研修を行ったり、進級制度を取り入れたりと、「担い手作り」をもくろんでいることを紹介させていただき、以下のような内容で報告させていただきました。（最近の活動状況から一部修正）

【大阪へ行く？行かない？】

デイサービスでの実施が思いのほか好評で、その後何度かリクエストを受け実施していた矢先、高知県庁の南海地震対策の震源地である“ミニトラフ”こと小溝さんから「大阪行きませんか？」とのお誘い。

クロスロード・サポーターの集いが開催される。内容はよくわからないが面白そう。日々の仕事の進捗上、上司の許可が出るかどうかもわからないし、公務出張にならないかもしれないが、大阪に行く？行かない？…と、迷うことも無く、めったにない県外出張のチャンスにと二つ返事をしてしまいました。

デイサービスで使っているパワポを加工し、それなりに準備完了。報告用のデータを送った出発直前、「大阪会場は“ヘビーユーザー”が多いと思うんで、いろいろ参考になると思いますよ。」と小溝さん。

妙なプレッシャーを与えられ、不安とためらいを抱きつつも、すでに「YES」カードを切った身、たった4回の実績をぶら下げ、いざ大阪冬の陣…

【使い方いろいろ】

まずは、神戸市の柿本さんの報告。神戸では、職員研修や地域での防犯や福祉の設問も用意して活動しているとのこと。

なんと序盤で「クロスロードの弱み」を指摘していた！かと思えば「クロスロードの強み」もしっかり整理…さすがに神戸クロスロード研究会、私がこれまでなんとなくクロスロードを実践しづらかった（吉川・矢守両先生ごめんなさい）部分と、やってみようと思わせる部分をうまく言い当てているという印象で、なんだかすっきりする報告内容でした。



新年おめでとう！
ことしもクロスロードから
始めよう！



友永さん報告(続き)



写真2 友永さんの発表

る防災学習の場を兼ねることができる（今ではこちらの学習効果に期待している）という付帯効果があることに気づきました。

■住民向けクロスロードの心がけなど

実際に地域で起こった事例を題材にする（みんなが知っている地域の地名や写真で興味をそそる）ことで、その課題＝災害は身近な問題だと理解してもらうことや、スポット的な学習の場なので、その場で完結する必要があるため、問題に対する予備知識やさまざまな情報を提供し、モヤモヤ族を作らないように心がけています。

-----くろしお報告おわり-----

【実践で実感】

実践して（特にオリジナル問題を作って）感じるのは、クロスロードは災害対応に限らず、意見が分かれ問題となる事象を、内包する二面性から検証することができることから、何らかの判断を伴う場面やルール作りの場面など、様々なジャンルで活用できる可能性を有していると実感しています。

そして、なにより「大大特」で生まれたクロスロードが、合併してなお14,000人規模の小規模自治体でも実践でき、参加者たちの口コミでこの1年で9回も実施することになるほど好評を得ているということが、クロスロードの可能性を確実に物語っているのではないのでしょうか。

【最後に】

大阪会場でお世話になった皆さん、どうもありがとうございました。今後の交流に期待しつつ、私からの報告を終えさせていただきます。

(高知県幡多郡黒潮町 友永公生さん)

-----くろしお報告はじまり-----

■黒潮町の取り組みの概要

2006年3月20日、2町（大方町・佐賀町）の合併により誕生した黒潮町は、人口規模14,000人強、高齢化率約32%、要介護認定者率約5%の町であり、多くの地区でボランティアのサポートを得ながら、ミニデイが実施されています。

話を聞くだけよりは、楽しめ、記憶に残るものを取り入れようとミニデイの場で実践を試みました。

すべてオリジナル問題なのですが、高齢者向けということで、災害対応のシミュレーションというより、身近に起こる（起きた）ことを題材にした啓発や広報を主な目的としているため、クロスロードの亜種的な作りになっています。

■住民向けクロスロードの実践結果

急なリクエストからの出発でしたが、各地域へ口コミで広がり、2006年中は6回実施、2007年も1～3月に各1回の予定が入っています。1回あたりの参加者は25～40人くらいで、うち4、5人がボランティアスタッフです。

参加者がお互いに話しができる点がデイサービスの趣旨に合致しており、好評を得ている要因と思われます。

■デイサービス+クロスロードのメリット（直接効果と付帯効果）

実際にやってみると、高齢者に楽しみながら防災学習をしてもらえるという目的であるのに、高齢者から南海地震をはじめ地域における過去の災害の体験談が聞けたり、地域の様々な場で中心的な役割を担っているボランティアスタッフと面識ができるうえ、ボランティアスタッフに対す



写真3 今西さんの発表

クロスロード大阪会場に参加して

今回、初めてクロスロードの集いに参加させていただきました。矢守先生の地元である千里中央駅を降り、会場となる千里朝日阪急ビルに・・・会場には、クロスロード新聞でおなじみの顔が揃っており、いい雰囲気。用意した机が足りないほどの盛況ぶりに驚きました。

四日市市においては、3年前に人と防災未来センターの研修で矢守先生からクロスロードをご教示いただき、「これは地域の防災活動の活性化に使える」と感じ、それ以降吉川先生やすでに実践されていた呉市、高知市の方からアドバイスをいただき、取り組んできました。本市では、防災出前講座として年間180回程度の出張講話を行っており、これまでいくつかの講座でクロスロードを取り入れてきました。住民の反応は大変良く、有益なものであると感じています。最近では、職員研修のテーマとしても活用しています。私は消防本部からの出向なのですが、災害現場で瞬時に判断を要求される消防士にとっても、大変いい題材であると感じています。

今回の集いでは、各地域で行われている実践報告をいただくと共に、それぞれの担当者が工夫している点や苦労した裏話など、実務者であるがゆえに感じるジレンマを報告いただき、大変参考になりました。熱い皆さんの思いが言葉の端はしに感じ取れ、これはクロスロード新聞の報告では感じ取れないものだなーと痛感しました。(百聞は一見にしかず！)

最も大きな収穫は、やはりここでできた人と人とのつながりではないかと感じています。クロスロードというひとつの防災ツールを通じて、多くの方が全国各地で熱心に取り組んで見える姿を拝見して、私も以前にも増して、クロスロードの普及に力を入れなければ・・・と意を決したところでもあります。

ここで私の考えた消防職員、団員向けの問題を考えましたので、参考までに・・・

①あなたは救急隊員です。「現場到着したところ、早朝、トイレに行った際に倒れたと思われる状態で70歳男性を発見。すでに心肺停止後30分以上経過している様子。心肺蘇生をすれば、蘇生できる可能性がある。しかし、間違えれば植物人間を作りかねない。蘇生する？しない？」

②あなたは、消防団員です。河川の決壊した現場に出動。河川巡視の際に、河川に流されている人を発見した。流れは比較的ゆるく泳いで助けられないこともない。しかし、現場には他の隊員はいない。飛び込んで助ける？他の隊員を呼びに行く？」

③あなたは救急隊員です。救急要請で出動したら、紙袋を持ったおじいさんが立っていた。「今日から入院

するので、病院までお願いしたい」とのこと。救急車で搬送する？しない？

④あなたは消防隊員です。市民からの119番通報で、「猫が2階の屋根に上って降りてこれないので、はしご車で助けてほしいとのこと。」はしご車を出しますか？

⑤あなたは消防隊員です。市民からの通報で「家の軒に蜂の巣があり、駆除してほしいということ。」個人宅は各自でお願いしたが、費用がかかるのであれば、放置したいとのこと。近くには通学路がある。駆除に協力する？

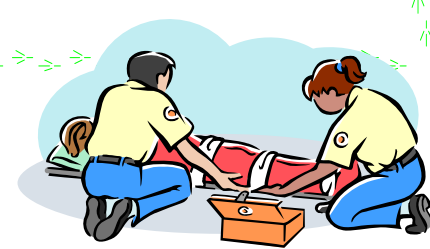
⑥あなたは、消防団員です。深夜1時自宅付近で火災が発生した様子。炎上火災で、出場すれば朝方まで帰宅できない様子。明日、会社では昇進を掛けた大切な試験がある。消防団の任務も重要であるが、昇進に向けて1年以上勉強してきた努力も無駄にはしたくない。あなたは火災現場に出場しますか？

⑦あなたは新入りの消防団員です。地域の人に誘われて、気分の乗らないままに入団した。しかし、分団長は変わり者で、まちの嫌われ者。入団当日、歓迎会で早速意見が合わずに大喧嘩。消防団をやめてしまう？続ける？

⑧あなたは消防隊員です。地震が発生し、地域では多数のけが人が出ている様子。たまたま自宅付近の現場に出動すると、死者も出ており、自分の家もつぶれていた。隣の子供と自分の母親ががつぶれた家から救出された。子供はすでに3-300状態の様子。自分の母親は大怪我をしているが、まだ助かる見込みがある。隣の夫婦が子供を病院へ搬送してほしいというが、母親を先に搬送する？

(三重県四日市市防災対策課 人見実男 さん)

ミニ解説：3-300状態とは
救急隊が患者の意識状態を示す指標で「Japan Coma Scale」と呼ばれるものです。通称JCSといわれ、3-300状態とは痛み刺激にも反応しない状態(死亡状態)を指します。



新年おめでとう！
ことしもクロスロードから
始めよう！

こんなところに心理学(9)：普段やってないことはできない



心理学には優勢反応の理論、というのがあります。優勢反応とは、その状況でもっともよくやっている行動のことを指します。つまり、その行動が、他の行動と比べて「優勢である」ということなんですね。

オリンピックやワールドカップのような大きなスポーツ大会で「実力を出し切れない」選手や「本番に弱い」といわれるような選手がいますよね。逆に、期待もされていなかったのにいきなり金メダルを取って「大舞台に強い」といわれる選手も。

こういう場面にあうと、私たちは「精神的に弱い人」だ、とか、「あの人は緊張しやすい人だ」というように、その人が力を出し切れなかった(逆に出し切れた場合は、「大胆不敵な」とか「冷静沈着な」人、といいますよね)原因を性格のせいにすることが多いのではないのでしょうか。でも、心理学ではそういう説明はしないのです。

実は、心理学では、人が見ていると、誰でも緊張する、と考えています(観客効果)。つまり、性格による差はないわけですね。緊張して当たり前、あがって当たり前、なのです。さらにさらに、人が見ていなくても、隣にだけで、つまり他者と同じ場所に存在しているだけで、このような緊張が高まることが知られています(共存の効果、といいます。)

ここから先が重要なところで、人は緊張したり興奮したりすると、いつもやっていること(優勢反応)が出てくる、ということが知られています。これが優勢反応の理論です。「とっさにできること=いつもやっていること」、なんですね。

最初にあげたスポーツ選手の例に戻ると、大舞台なら

んな選手でもあがるわけです。そのあがった状態の時に出てくるのが優勢反応、というわけですから、よく練習している選手はすごいワザが優勢反応なので、見事成功。ところが練習が十分でないワザは、失敗するべくして失敗する、ということになるわけです。結局は練習が大事、ということなのです。

防災訓練のシーズンになってきました。毎年のことだから、やる気が起こらないから、ってサボっちゃったり、まじめにやらなかったりすること、ありませんか?十分練習しておかないと、優勢反応にすることはできませんよ。

災害の時の避難路はわかっているけど、それが普段使う道でなければ、まさかの時にそこを走ることはまずありません。気持ちがパニックになったとき、人間は自動機械になるのです。自動機械になったとき、足が自然と避難所へ向くように、毎日の散歩や日頃の防災訓練で練習しておいておくのが大切ですね。

以前、大きなビル火災で早期に脱出して難を逃れた女性がありました。その方は、ダイエットのため、通勤に毎日非常階段を歩いて上っておられたのです。この火災ではエレベータに殺到して多数の方がなくなりましたが、彼女は、この毎日の習慣のおかげで幸運な数少ない生存者となることができたのです。

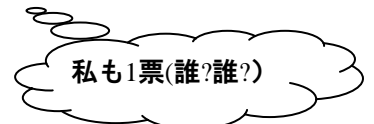
そういえば、「私だって寝ていないんだから!」と、記者会見で失言してひんしゅくを買った社長が数年前にありましたが、きっとその方は、毎日部下をしっかりとつけていたんだろうなあ、と思うのでした。

火事場で出る日常

◎やなせたかし



※ 痴漢で現行犯逮捕される人のニュースを聞く度、「絶対この人常習犯なんだろうなあ」と思うのは私だけ?(ヘルパちゃん)



小学生がクロスロード



千葉県布佐南小学校の中野直美先生から、授業でクロスロードをお使いくださったという報告をいただきました。

使用した、問題はクロスロード「市民編」の問題をそのままつかわせていただきました。ただ、活用の仕方は少々アレンジさせていただきました。

使用した問題は次の4問です。

- 市民編5002 風呂の残り湯
- 市民編5003 耐震金具
- 市民編5009 ペットと避難
- 市民編5014 非常持ち出し袋

児童たちは、防災学習の発表会の場で、風呂の残り湯をためておくことの必要性や耐震金具の重要性を主張していたので、1問目と2問目に関しては簡単に意見が述べられるかと思い、この2問を選択したのですが、意外や意外、意見は半々ぐらいに分かれてしまいました。

後半2問は、意見が真っ向から対立することを予想して選択したのですが、思惑通り児童たちはゲームになれてきたことも加わり、それぞれの意見を戦わせていました。防災について学習してきた児童にとっては、クロスロードは原文のままでも十分に議論できるものもあると思います。

ゲーム中耐震金具をつけたくないと言っていた児童も、ゲーム終了後落ち着いてふり返りを行った後の感想では、「ゲームの時には見た目を選ぶと答えてしまったけど、命の方が大事だと改めて思いました。」と述べていました。が、ゲーム中の回答が実は正直な気持ちなのでしょう。多くの大人のわかっているけど・・・と同じですね。

ゲームの流し方としては、問題カードは教師側で意図的に内容順番を吟味し、全体に出題しました。そして、5人一組のグループごとに、自分のグループではどの意見が多数派かを予想してYES、NOカードを選択。カードのオープンは一斉に行いました。その後、グループ内で一人ずつなぜそのカードを選んだのか理由を話していき、その話を聞いた後、多数派の予想ではなく自分だったらどうするかを再度選択し、カードをオープンするという方法をとりました。

小学生では、ルールへの把握がなかなかむずかしくうまく進められないグループも出てくるかと思い、このような形をとりました。おかげで、ルール、手順の方は皆理解できたようなので、今回は、純粋にクロスロードのルールで行っても可能かと思えます。

子どもたちは、ゲームの中で議論を重ねていく中で、それぞれの立場の考えがよくわかりなおさら混乱すること、災害時にはいったいどうしたらいいんだろうとより真剣に防災を身近な問題としてとらえることができたようです。

頭でわかってはいたものの、防災を優先できなかったことから、改めて防災への取り組みの難しさを感じた児童も

いたようです。

事務局より：生徒さんたちの感想文の一部をご紹介します。

・クロスロードはいろいろな悩む問題があって難しかったけれど、いろいろな人の考えがわかり楽しかったです。防災のためでも、やりにくいことややりたくないこと、自分がその立場になったとき、同じことで悩むと思います。もっといろいろな問題があればもっと楽しかったなあと思います。

また今度、クロスロードをやりたいです。

・クロスロードで自分の考えが多数派だったときも、少数派だったときも、みんなの考えがわかるし、少しゲーム的な物もあるけど「トチキング」や「すごろく」よりも記憶がしやすく、頭にしっかり入ってきてよかった！と思います。

「ざぶとん」というのもおもしろいです！

・非常持ち出し袋の問題では、3日分の食料を人々に分け与えるのはどう考えても無理（自分にはできない）。けど、実際に災害が起きてしまつてとなりに飢えている人がいたら、同情してしまうかもしれない。やっぱりどうすればいいのかが相当迷ってしまう。

このゲームは自分の意見が言えて、とても良かった。考えなければならない問題もあって、とてもためになった気がする。

・クロスロードでは、自分が本当にこうなってしまうたらどうしようという気持ちになってしまつてすごい悩みました。

このゲームで実際になったときにはどうしたらよいかかわかって良かったです。また、やってみたいなと思えました。

・4問中4問ともYESかNOを選ぶのが難しく、もっとゲームだからすぐわかるようなゲームだと思っていました。自分の意見が他の人に知ってもらえたことと、他の人の意見がわかるということがすごく理解できました。その中で同じ人がいたり違う人がいたりしてよくわかったし、また説得されるとその方が・・・となつたりしてさらに難しくなりました。

でも、終わってから私はその時の状況によって違つたりするし、判断が難しいから前々から家族などと話し合つた方がいいと思います。

1番気になったのが転倒防止金具の取り付けで、うちはしていないのでした方がいいと思いました。

クロスロード進級者発表です！

以下の方を中級に認定いたしました。(敬称略)

【中級】静岡県中部地域防災局 防災企画課 天野 歌子
三重県四日市市防災対策課 人見 実男
【上級】三重県四日市市防災対策課 人見 実男

【応募先】108-8345 港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部 吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：06-5427-1251
ファックス：03-5427-1578
メール：kikkawa@aoni.waseda.jp

電子投稿はこちら↓

<http://maechan.net/crossroad/toukou.html>

クロスロード資料共有システム開始のお知らせ

ファシリテータの集いでお約束しておりました、クロスロード問題や資料の共有システムを開始することになりました。

まずは、東京会場と大阪会場に参加くださったファシリテータの皆様へパスワードをお送りします。そのパスワードを使って、以下のリンクからお入りください。

<http://maechan.net/crossroad/common/>

このシステムでは、資料をダウンロードされる際に、ダウンロードされた方のメールアドレスとIPアドレスを記録する仕様になっています。これは、ダウンロードされる方の登録アドレスと一致しているかどうかの確認を事務局でとるためのものです。ご面倒ですが、アドレスを入力してからダウンロードをお願いします。IPアドレスは自動的に記録しています。

現状では、神戸編、一般編、市民編以外の要援護者編、学校安全編などから掲載されています。順次内容を充実させていく予定です。ファシリテータの皆様の中で、「これは共有してもよい」という問題や資料があ

りましたら、事務局宛お知らせください。資料の掲載は、管理者がいたします。

kikkawa@aoni.waseda.jp

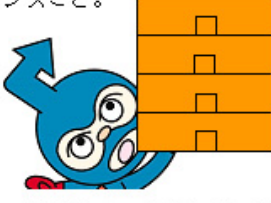


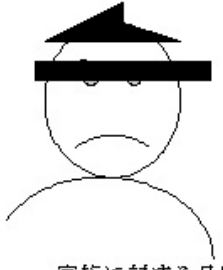
システムの使い勝手などもお気づきの点がありましたら、お知らせください。できる限りの改良を加えていく予定です。



ファシリテータの集い(東京会場)での議論

消防士は見た

◎やなせたかし

<p>消防士は見た</p> <p>パンツ一枚で寝ていた男が、このままで逃げられないと、持ち出したのは着替えや貴重品の入ったタンスごと。</p>  <p>日頃からの「おおざっぱな決断力と行動力」をかいま見たような気が・・・。</p>	<p>手に握っていたのは、口紅だけという女性も。</p>  <p>日頃からの「美への執念」をかいま見たような気が・・・。</p>	<p>テレビ！？・・・という人もいれば、</p>  <p>なぜ枕なんか・・・</p> <p>・・・という人も多い。</p> <p>火事なんて緊急事態に、せいぜいできることはこの程度。</p>	<p>しかし、深刻なのは家族をまたいで自分だけ逃げた男。</p>  <p>・・・家族に対する日頃の想いを疑われても仕方なかった。</p>
--	---	---	---

“クロスロード”，新たな挑戦

— 救援物資の物流に関する基本的な考えを国内外の実態とクロスロードから整理する —



工学系・技術系の研究会で、国内外災害ボランティアの経験を基に、救援物資のあり方について、“クロスロード”を使って効果的に提言し、参加者から好評を得たので、その発表内容をご紹介します。

昨年7月27日、愛媛大学総合情報メディアセンターにおいて、愛媛地震防災技術研究会総会が開催されました。今回は、南海地震での津波避難に関連する主要課題と避難後の生活基盤復興について、防災専門家や研究会メンバーが意見交換し、問題点を発見、今後の対応を模索することを目的として、工学系の研究者、地盤リサーチ、報道関係、防災部局、消防職員ら約40名が参加しました。

この発表では、新潟県中越地震災害ボランティアの経験から、救援物資の受入れ対応に終われ、災害対策本部に物資が滞留、混乱するという状態が発生し、阪神・淡路大震災の教訓が活かされていないことが浮き彫りとなっている実態と、タイ南部津波被災地でも救援物資が滞留し、数量管理もされず余剰していた実態を示し、クロスロード（青・赤一斉表示方式）の手法を用い、救援物資等の物流に関する基本的な考えを整理することを提言しました。

実態1 新潟県中越地震

まずは救援物資の実態を可視化させます。「押し寄せる物資！」と掲題し、画像とともに「とにかくもの凄い量が来る」、「必要量と来る量が調節できない」、「電話もなく突然来る」、「職員総出で荷下ろしをする」、「賞味期限のある物資、ニーズに添わない物資の行方」「災害対策本部の前にはトラックが列をなす」などのテロップを付け、次々に流します。

実態2 タイ南部津波被災地

現地物資センターの、日本を遥かに越えた「余剰化」の実態を流しました。

「タイにコート!?!」「毛布?タイの夜も寒い?」「赤十字のピクトグラム(絵文字)にも落とし穴」などのテロップを付け、流します。タイ津波被災地の画像は珍しいみたいで、「えっ?ここは本当に、救援物資センター?」と声が上がります(実際“災害ごみ”集積場に見えるんです…)

そうやって、救援物資の基本的なあり方を整理していく「導火線」に火を付けておき、「さて、ここでゲームをします!」と切り出します。そうすると、会場から「えっ?何が始まるの?」「災害対応の話題なのにゲーム?」という声上がり、(特に理系の研究者の方々)ワイワイと騒ぎ出すのです(失礼!)

クロスロード1 神戸編 1003 (少し“ひねり”を加えて)

「あなたは救援物資担当課長…」

救援物資で送られて来た服(古着混載)が大量に余ってしまった。庁舎内には保管する場所がない。倉庫を借りる

のも費用がかかる。提供者や世論からの批判は確かに怖いですが、いっそのこと焼いてしまう? YES(焼く) or NO」

この問いに、あれだけ混乱した物資の実態を見ても「NO」を上げる人が半数いました。「YES」をすぐに上げたのは理系の研究者で、「らしい!」と感じ、迷った挙句「NO」を出した人の中には「途上国へ送る」「善意の物資を焼却なんて」という理由でした。タイの実態は、まさにそれで、日本人の「もったいない」精神が働くのだと思いましたが(途上国へ、というのが少し気になりましたが)、受け手のことを考えずに送る。このやっではないことを、“クロスロード”によって見出すことができ、ディスカッションもファシリテータなし!で盛り上がりました。

クロスロード2 神戸編1002

「あなたは避難所担当の職員…」

災害当日の深夜。市庁舎前に救援物資を満載したトラックが次々に到着。上司は職員総出で荷下ろしを指示。しかし、目下、避難所との電話連絡でてんでこ舞い。上司の指示に従い荷下ろしをする? YES(従う) or NO」

これもYES・NOは半々でした。会場には実際に上下関係にある方が5組いらしたのですが、印象的なことは、部下の方全員がNOで、上司全員がYES だったことでした。NOの意見としては「モノより人」「担当職務を全うすべき」「上司に具申する」という意見。YESの意見では「上司の指示は絶対。それで組織は動いている」「上司は適切だと判断して指示を出している」といった意見が出され、これまたファシリテータなしのディスカッション(クロストーク?)で、盛り上がりました。

救援物資の物流の基本的な考えへの提言でしたが、参加者からは、かなり印象深く入り込めたとの感想が出されました。クロスロードを使わずに同じテーマの発表を他の学会で発表した経験があるのですが、「救援物資は(世界)共通課題なんだ。やっぱり考えないといけないね」程度の食いつきでしたが、今回は講演終了後、参加者全員から、①救援物資の基本的な考え方、②全国的な基本ルールを考える、③受入れ窓口の標準化、④余剰分の取扱い、⑤数量管理システムなどを再度考えよう、愛媛から発信しようという結びで発表を終了しました。

災害ボランティアの知見が、ただの体験報告で終わることなく、“クロスロード”の手法を使うことによって、これだけの波及効果を出すことが立証できたという事例です。今後も、“クロスロード”との出会いに感謝し、普及と発展に誇りと責任を持ち、様々な形のプレゼンを実施することで、“クロスロード”を広めていきたいと考えています。

(呉市消防局 林国夫さん)